

重度重複障がいのある児童生徒に “伝わる”授業がしたい

長野県飯田養護学校 小室 惟

本日の内容

ICTを活用した重度重複障がいのある児童生徒の

- ・観察の方法と視点
- ・表出の捉え方
- ・かかわり方
- ・授業の組み方

を、訪問教育の先生と共有しながら実践をしている話

過去の実践で児童生徒を観る視点を持ち、 かかわり方や授業内容に変化が生まれた

毎回同じように授業を進めても、
その日その日で反応が違うな…

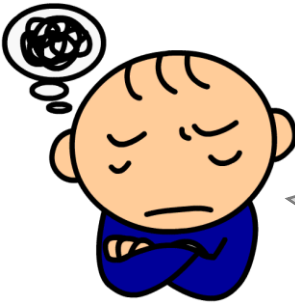
どのような方法で
教育すれば…？

できるようになったことや成長を
確認するのがって難しいなあ…

学習を積み上げる
には…？

笑ってくれると安心するから、
感覚遊びばかりしてしまうけど…

楽しそうな学習
ばかりで良い…？



何かを感じたり、表現したりしている様子を観察したり、
担任間で共有したり、客観的に説明したりすることが難しい…。
何をどうしたら児童生徒のことを知るができるんだろう…。

過去の実践で児童生徒を観る視点を持ち、
かかわり方や授業内容に変化が生まれた

実践



観察の方法を学んで
実態把握を行う

表出があった時
何に注意を向けているか
観察すること

注意を向けたり、考
えたりするような学
習を取り入れること

ICTの力を
借りる

身体の動きの減少に注目して学習を
行い、「よく聞いていたね」と即時的に
称賛できるようになった

過去の魔法のプロジェクト実践から

動きを可視化する

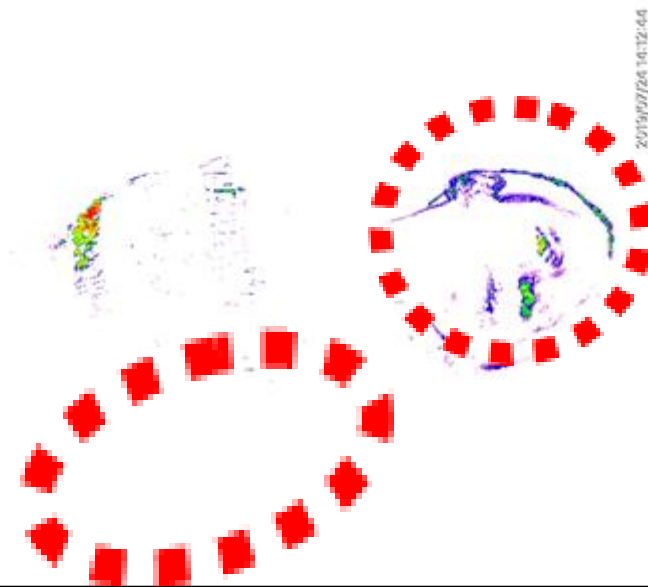
= 「なんとなく」捉えていた児童生徒像からの脱却

聴覚刺激（ベルを鳴らす、本児左側から）

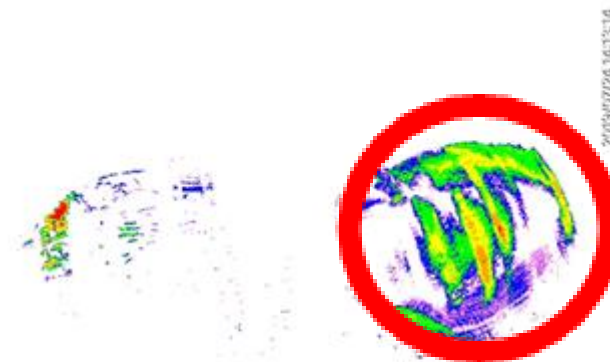
①無音（20秒）



②ベルを鳴らす（20秒）



③刺激の提示（ベル）を止める（20秒）



…動きの減少



…動きの増加

動きを可視化する

= 「なんとなく」捉えていた児童生徒像からの脱却

何かに注意を向けているときに身体の動きが減少



日常生活ではどんなことに注意を向けているのか、身体の動きが減少するかどうかを観察



注意を向けやすい刺激（音、光、触覚）を用いてかかわる、
学習を設定



児童生徒に“伝わる”かかわりができる、
コミュニケーションが取れる

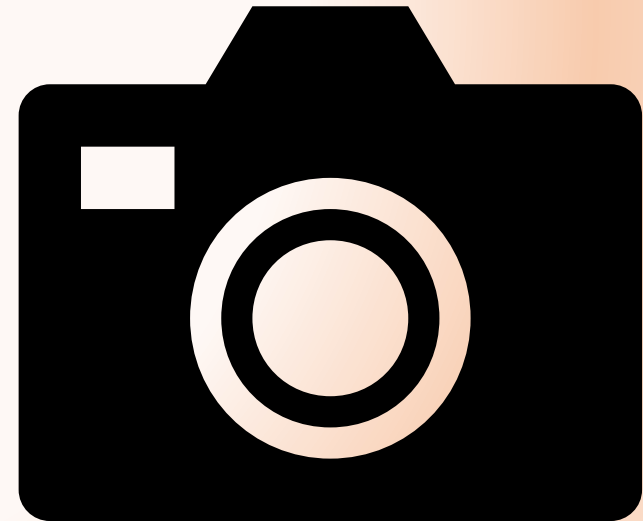
掛け
宛を
包っ



訪問教育を受ける、Aさんの話

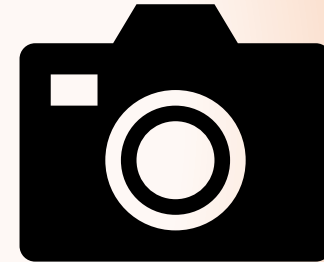
Aさんのこと

- 中学部2年生
- 訪問教育（週2回、各1時間）
- ベットサイドで授業を受けている
- 授業内容
 - …授業の始まりの歌、読み聞かせ、制作、楽器遊び、手浴など
- スクーリングや校外学習にも参加。



様々な支援者と過ごすAさん

- 医療的ケアを受けている。
- 家族や居宅介護サービス者、訪問看護師、訪問リハビリ士（以下、支援者）などと過ごしている。
- 支援者はそれぞれの立場から、Aさんが「穏やかに、心地よく、楽しく」過ごせるように支援にあたっている。



「もっとAさんのことを知りたいね」

「この音楽、心地いいな」「びっくりしちゃった」などの気持ち（表出）を知ることができたら、

Aさんも担任の先生も授業が楽しくなるのでは…？



「Aさんのことを知ろう」チームで実践を開始!

訪問教育の先生方



役割: 日々の授業、ビデオ撮影、保護者とのやりとり

役割: アンケートの集計、ビデオ観察、書類仕事

共通で取り組んでいくこと

- ① Aさんの情報交換
- ② Aさんのことを知るためにできることを出し合う
- ③ 授業内容の検討

Aさんのことを知り、“伝わる”授業をするには？

アンケートの実施

Aさんにかかわる方々（保護者、居宅介護サービス者、訪問看護師、旧担任など）にAさんのことを教えていただく

授業の進め方の検討

アンケートを基に、Aさんに伝わるかも知れない教材を使って授業を行う

アンケートの実施

目的

- ・Aさんが過ごす平時の環境について整理する
- ・Aさんと多くの時間を過ごす保護者や支援者にAさんのことを教えていただく（担任が気づかないAさんの姿をたくさん知っているはず!）

アンケートで、Aさんと私たちのコミュニケーションの実態を整理する

Q1. Aさんが普段過ごす環境について教えてください。

Q2. Aさんが「聞いているな」「伝わっているなあ」と感じた言葉や話の内容、その時の身体の動きの変化などを教えてください。

Q3. Aさんに触れたときに「触れたことを感じていそうだな」と思う身体の部位はどこですか。

Q4. Aさんに「聞いてほしいな」「感じてほしいな」ということを教えてください。

Aさんの実態を明らかにするのではなく、

「Aさんと私たち (=支援者) のコミュニケーションの実態」を整理する

アンケートで、Aさんと私たちのコミュニケーションの 実態を整理する

Q1. Aさんが普段過ごす環境について教えてください。

・部屋の明るさ

…自然光と室内灯を併用し、明るすぎず暗すぎない光量に調整されている。

・音

…生活音、医療的ケアにかかわる機器の音がするが、
一緒に過ごすご家族や支援者は差し障るような音量ではない。

アンケートで、Aさんと私たちのコミュニケーションの実態を整理する

Q2. Aさんが「聞いているな」「伝わっているなあ」と感じた言葉や話の内容、その時の身体の動きの変化などを教えてください。(一部抜粋)

言葉や話の内容、音など

- 支援者の声
- 学級の友達の声
- オルゴール
- ツリーチャイム
- 女子トーク

高い音が多い、との回答もあり

その時のAさんの様子

- 穏やかな顔つき
- 集中しているよう
- 口、舌、顔が動く
- 息づかいが深くなる

アンケートで、Aさんと私たちのコミュニケーションの実態を整理する

Q3. Aさんに触れたときに「触れられたことを感じていそうだな」と思う身体の部位と、Aさんの様子を教えてください（一部抜粋）

触れる部位

- ・手や足
- ・顔のマッサージ
- ・全身のマッサージ

その時のAさんの様子

- ・「うー」という発声
- ・強い緊張、せなかを反らせる
- ・脱力、弛緩
- ・クローヌスの出現

アンケートで、Aさんと私たちのコミュニケーションの実態を整理する

Q4. Aさんに「聞いてほしいな」「感じてほしいな」ということを教えてください（一部抜粋）。

<支援者の思い>

- ・読み聞かせ
- ・音楽
- ・マッサージ
- ・季節の変化（温度、風、匂いなど）
- ・一緒にいる人の声、温もり

アンケートで、Aさんと私たちのコミュニケーションの実態を整理する(まとめ)

支援者が調整し、一定の光量、音環境で過ごしている。

Aさんにとって“いつもの環境”が断続的に続いていると推測
(眩しい、うるさいと感じる場面や状況もあるかもしれないことは頭の隅に入れておこう…)

「高い音は集中して聞いていそう」

「低い音を聞いている時とは異なる表出」を支援者は感じているのかもしれない

触れられていることは感じていそうだけど、触れ方によって表出が異なる

緊張やクローヌスの出現を押さえられる触れ方、予告の仕方があるかも

授業の進め方の検討

「高い音、直接触れることはAさんの表出が引き出せそうだ」

- ・授業の始めにチャイムを鳴らす
- ・ふれあい体操や感触遊びを取り入れる

授業中は、

教材を提示する時間 (=刺激ON) 無音の時間 (=刺激OFF)

を明確にし、メリハリをつける

授業の様子をビデオ撮影し、観察を行う。



授業の進め方の検討

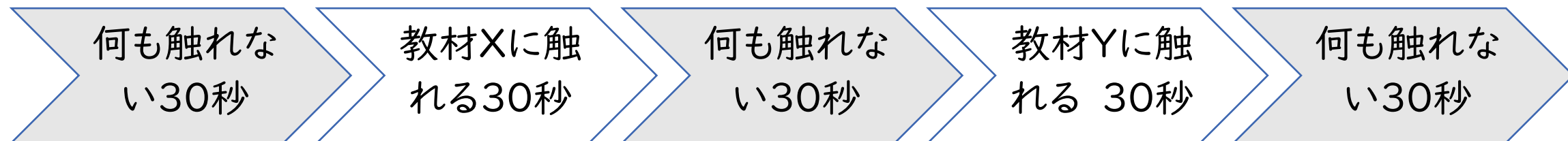
教材を提示する時間 (=刺激ON) 無音の時間 (=刺激OFF)

の具体例

<授業の始めのチャイム>



<感触遊び>



授業の開始…そして臨時休校…



「教師が授業を盛り上げなくては!」という意識から脱却できた気がしています。保護者の方にも「Aさんのこんな姿が見られたら…」と思って授業をしています。」と説明できていいです。

実際に授業を行う訪問教育の先生方、保護者の方に理解をいただきながら進められたこと、授業を開始できたことは大きい。Aさんの表出を探れるようにがんばろう…!



今年度の実践



Aさんに“伝わる”授業を目指して…

時間の区切りを明確にした授業の実施

昨年度の実践を継続し、時間の区切りを明確にして授業を行う

授業のビデオから表出を探る（ICT活用）

授業のビデオを見返したり、授業中のAさんの動きを可視化したりして表出を探る

Aさんも先生も楽しい授業、支援者への発信

Aさんに“伝わる”だけでなく、先生も“伝わっている”と感じる授業の実施
学校から支援者の方々へのAさんの姿の発信・情報共有

時間の区切りを明確にした授業の実施

訪問教育の先生方と確認したこと

①授業の進め方

- ・授業の始めにチャイムを鳴らす
- ・ふれあい体操や感触遊びを取り入れる

②授業中に気をつけること

教材を提示する時間 (=刺激ON) 無音の時間 (=刺激OFF)

を明確にし、メリハリをつける

授業の様子をビデオ撮影し、のちに観察を行う。



授業のビデオから表出を探る（ICT活用）

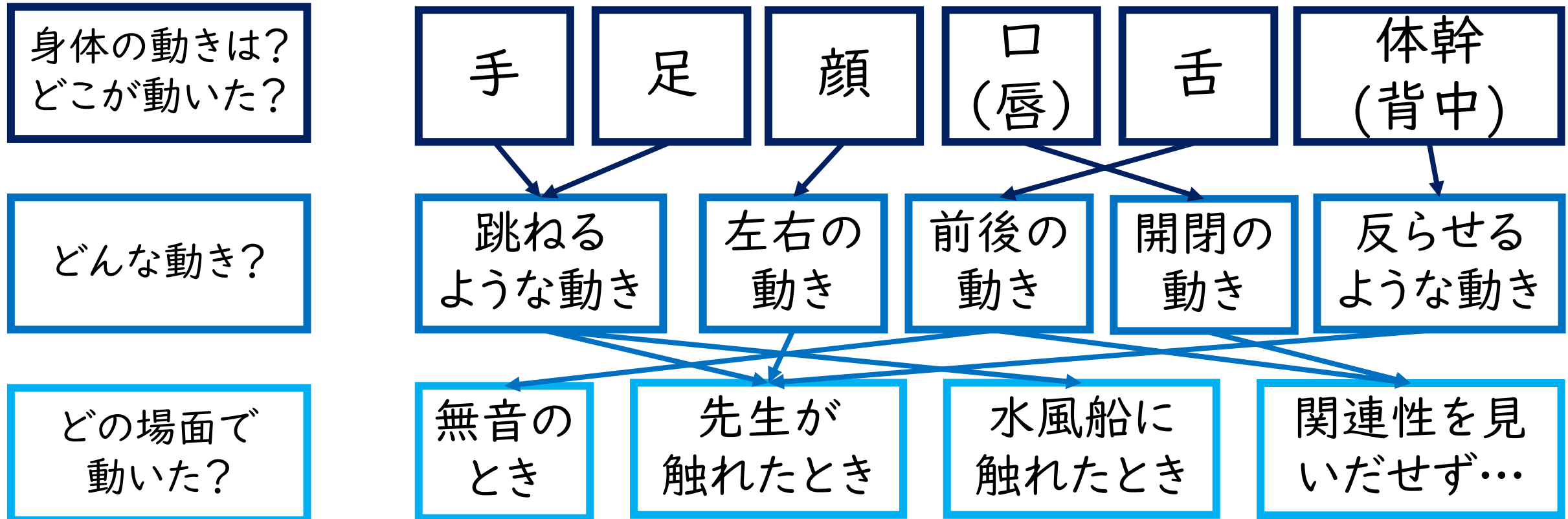
ビデオの見返し方法

- ① 通常速度で再生
- ② 早送りで再生
- ③ OAKcamで動きを可視化する



授業のビデオから表出を探る (ICT活用)

① 通常速度で再生…授業中に把握できる表出を探るため

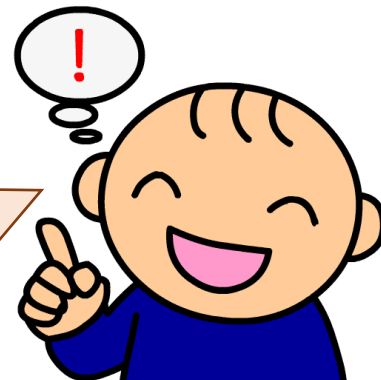


授業のビデオから表出を探る（ICT活用）

① 通常速度で再生…授業中に把握できる表出を探るため

- 大きな動き（全身が跳ねるような動き、短時間で動きの幅が大きい、クローヌス等）はすぐに見つけることができた。
- 先生が触れた時や、教材に触れた時の大きな動きは「びっくり!」している表れかも？

アンケートにも書かれていたAさんの姿を、授業の中でも見ることができた。
触れた時にびっくりしているようなので、触れる前の予告ができたらしいな。



授業のビデオから表出を探る（ICT活用）

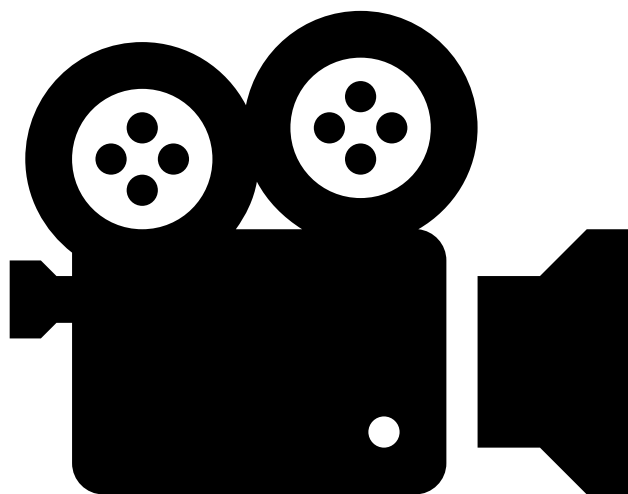
② 早送りで再生…ゆっくり変化する動き、僅かな動きを捉えるため

- 早送りで表出（身体の動き）を確認

→通常速度で観察し、どの場面での表出だったかを記録

授業のビデオから表出を探る（ICT活用）

② 早送りで再生…ゆっくり変化する動き、僅かな動きを捉えるため

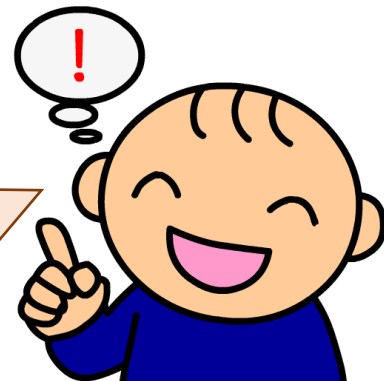


授業のビデオから表出を探る（ICT活用）

② 早送りで再生…ゆっくり変化する動き、僅かな動きを捉えるため

- ・ 無音の時間に「舌を動かす」「顔を左右に振る」動きが見られた。
→ 周囲の変化に気づいたのかもしれない

周囲の変化（活動の終了）に気づいているのかも？
授業中に動きがないのは、先生の声や音楽、触れている教材を感じている＝「集中」していて動きが少ないのかもしれない!?



授業のビデオから表出を探る（ICT活用）

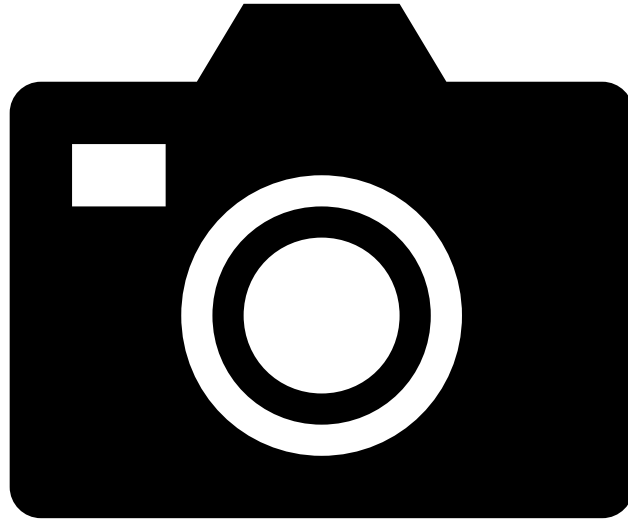
③ OAKcamで動きを可視化する

- 水風船に触れて冷感を感じる、感触の授業の一場面でのこと…
 - ・「水風船に触れる前後で表出があるのではないか？」と観察していたが、それ以外のところで表出が見られた。
 - ・手に掛けていたタオルをめくる前後の動きをOAKで可視化したところ…



授業のビデオから表出を探る（ICT活用）

- ③ OAKcamで動きを可視化する



タオルをめくる前後20秒

授業のビデオから表出を探る (ICT活用)

③ OAKcamで動きを可視化する

タオルをめくる



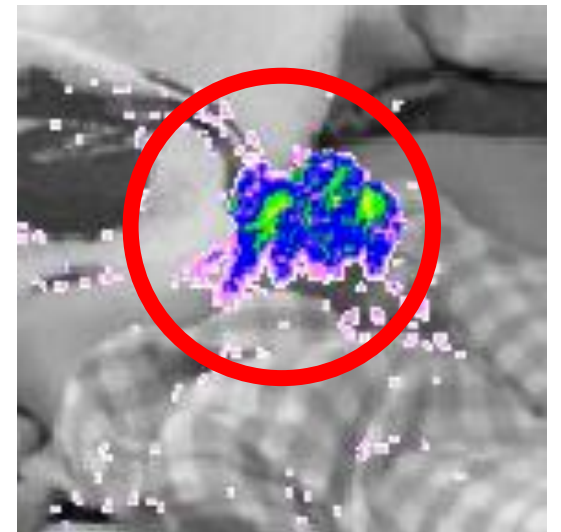
5秒



5秒



5秒



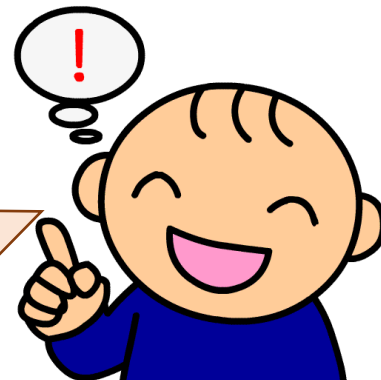
5秒

授業のビデオから表出を探る（ICT活用）

③ OAKcamで動きを可視化する

- ・授業で仕組んだ場面以外に、予想していなかったAさんの動きを捉えた。見落としているAさんの表出がまだまだありそうだ。
- ・ビデオの画面全体が揺れており、表出が画面の揺れに埋もれてしまっている可能性もある。ビデオの設置位置や固定方法が課題。

手の刺激に対して足が動いていたのは初めての発見！
足以外にも表出をしているところがあるかもしれないので、引き続き表出について観察していきたい。



授業のビデオから表出を探る（ICT活用）

○ビデオで見られた表出を、訪問教育の先生方と共有

- ・ビデオで見返すと様々な表出があること。その表出が見られるきっかけや、表出の解釈は今後もビデオを見返して慎重に進めたい。
- ・時間の区切りは30秒より短くても表出が見られそうであること。
- ・寒い季節に向かっていくので、手足を出しての観察は難しくなりそうである。顔を中心に、ビデオの固定をしっかりと行って観察を続けたい。

これまでAさんに感じてほしいこと、聞いてほしいことなどが伝わっていることがわかり、**安心**しました！
これからの授業も楽しみます。



ここまでの実践を振り返って…

・保護者、支援者など、様々な立場の方のAさんへの思いを知る。

アンケートの実施

・Aさんに伝わりそうな刺激や教材の選定。提示する刺激を絞る。

授業の進め方の検討

・時間にメリハリをつけて授業を実施。

時間の区切りを明確にした授業の実施

・様々な表出を確認。
・「伝わっている」という手応え。

授業のビデオから表出を探る

・Aさんも先生も楽しい授業
・支援者への発信

↑
イマココ

今後の展望

- ビデオ観察を続け、表出の条件（環境や提示の時間、姿勢など）を可能な限り明確にする。それらを授業に反映させていく。
- Aさんの表出を即時的に把握できるためのICT機器の活用の検討。
ex) iOAKを起動したまま授業を行い、Aさんの動きを音で通知する
- Aさんの生活がより豊かに、好きなことをする時間や心地よい時間をたくさん持てるように、学校側から、Aさんの保護者や支援者へ情報を発信。

**Aさんに“伝わる”授業
教師が“Aさんに伝わっている”と確認できる授業**

ご清聴ありがとうございました